

## 病院事業説明会 及び 市民との意見交換会の概要(1回目)

日時：平成 29 年 5 月 17 日 19:00 ～ 20:23

場所：南部地域構造改善センター

参加人数：55 名

出席者：市長、院長、診療技術部長、薬剤部長、事務長、管理課長、管理課長代理、医事課長、看護部長、看護部副部長

### 説明

19:00 ～ 20:03 病院のスライド発表、診療技術部長・薬剤師・看護師による業務説明。

20:03

意見交換会に入ります。質疑をする方は、挙手の上、“質問”なのか“意見”なのか述べたうえでお願いします。

質問：入院患者数と入院収益の推移について、意見を聞きたい。一日当たりの入院患者数が減少しています。※病院 HP 経営等の概要より

年度	一日平均 入院患者数
25	89
26	83
27	81

入院患者の減少に伴い、入院収益も減少しています。

年度	入院収益（≒実際は医業収益）
25	2,797,366,000
26	2,701,845,000
27	2,545,428,000

なぜ、入院患者数と入院収益が減少傾向にあるのかを説明いただきたい。昭和の終わりから平成のはじめのころは、もっと入院患者があふれていました。

回答：病棟の利用については、4 病棟ありますが、2 病棟で運営しています。2 病棟での病床数は 103 であるため、入院患者数の 80 数人で約 80%の利用率であります。次に、診療機能自体の低下も関連があるのではないかと考えます。入院の必要な患者さんをすぐに受け入れられる体制を整え切れていない。医師の確保により、病床の稼働率が向上できると考えます。

医師や看護師の数を増やすためにも。修学資金制度を利用し人材の確保に努めたい。

これらにより、地域住民の健康を守ることに繋がると考えます。

20:11

質問：病院内のボランティアは何人いますか？

回答：正式に登録された方はいません。しかし、病院周辺の草刈りではシルバー人材センターの方、花壇の整備は花の会などに行ってもらっています。また、院内デイケアを利用している患者さんのために、演奏(歌)やバルーンアート等の催し物を単発的に行ってくださる方もいました。

かつては、外来の案内や入院の案内がいた時もありましたが、患者さんの中には、ボランティアの方が地域の顔なじみであることが快く思わない方もいるため、廃止したと聞いております。

しかし、それも昔の意見であるため、6月に行う患者さんに対するアンケート調査に、当該項目(ボランティアは必要ですか?)を設け、現在の意見を伺い対応を検討したいと思っています。

質問：診察終了から会計までの平均時間を聞きたい。他院では10～15分と聞いている、これに比べ、湖西病院は遅いのではないかという噂を聞いたので質問しました。

回答：正確な数値は持ち合わせておりません。診察終了から会計までの時間に関連して、当院は24時間体制で救急の受付も行っております。通常の外來中であっても、救急車が入れば、診療を中断し救急の対応をすることがあります。また、外來は予約制をとってはおりますが、新患の患者が来院すれば、診療の順番が多少前後し待ち時間が増える場合があります。

質問：次に、看護師の技術(採血・点滴等)はいかがか?血管が細い方を採血するときに「私なら一度で採決する自信がある」と言える看護師の割合はどのくらいありますか?

回答：半分はいかないと思います。当院は、経験年数を積んだ職員が多いので20～30人はいると思われます。また、技術の向上のために、シミュレーターを導入しています。

20:19

質問：今回の説明会は、病院改革プラン等の事業説明会なのか、市民との意見交換会が目的なのかどちらですか?

回答：両方です。一つは改革プランを策定したので、その概要の説明です。もう一つは病院のことを知っていただくための事業説明と意見交換会です。

質問：改革プランのことについて、個々の取り組みがあるが、もっと具体的にしたものが無いと評価できない。大きな目標数値だけを挙げられても妥当性の評価ができないのではないかと思います。

質問：今日は、改革プランの全文を用意することができませんでしたが、改革プランには、個々の目標を設定したものがあります。その目標について、委員会を設置して毎年、検証しながら評価をしていきます。

20:21

貴重な意見ありがとうございました。以上をもちまして、終了させていただきます。最後にアンケートにご記入をよろしくお願いたします。

## 病院事業説明会 及び 市民との意見交換会の概要（2回目）

日時：平成29年5月20日（土）10：00～12：00

参加人数：56名

出席者：市長、院長、副院長、事務長、管理課長、管理課長代理、医事課長、看護部長、看護部副部長、臨床工学科長、臨床検査科長、放射線科長

### 説明

10：00～11：10 病院のスライド発表、副院長・臨床工学技士・放射線技師・看護師による業務説明。

11：10

### 意見交換会

質問：BSCについて内容については後ろの壁にも掲示してあります。湖西病院全体の職員一人当たりの効果金額はどのくらいになっていますか。

回答：平均をとると難しい。約1,000万円が効果額となっているので300人としておおよそ3万円という解釈となる。職場ごとに取組を行っているので科によっては金額が出ているところもあれば、安全対策とか教育などの取り組みをしているところもあります。

質問：病院に入ってくると職員が挨拶をしてくれるので気持ちがよく感心する。BSCのPRをするため、職員一同で経営に参加していることが分かるように1階ホールにも掲示したらどうですか。

回答：挨拶については前市長からも現市長にも挨拶に心掛けるよう指示されているので引き続き取り組んでいます。貴重な意見をいただいたのでホームページや1階ホールなどにBSCの概要を説明できるように検討したいと思います。

質問：平成32年までの数値目標として28年度見込みは正確な数値ではないなら27年度のデータを基本にして目標を設定した方が良いと思うがどうでしょうか。経常収支比率の28年度から31年度までは97%から94%に下がっているが32年度が98%と4%上がっています。これは3病棟で運営をするから4%上がるという解釈でよろしいでしょうか。

回答：27年度の数値があり28年度の見込みができています。31年度から32年度にかけて4%上がるのは2病棟から3病棟での運営となることにより経営状態をあげていこうという計画でございます。

質問：28年度から32年度までは経常収支比率が4%ほど上げるために必要なことは何ですか。

回答:看護師看護補助者を 32 年度までに 1 病棟約 25 名程度確保しないとイケないが、一度に 25 人というのは今の湖西市を取り巻く環境の中では確保が難しい状況です。3 年間かけて少しずつ確保して、教育とか今の病棟のほうで訓練とか仕事はしていくが、どうしても 2 病棟の運営の中での人件費が人を確保した分だけかかってくるので数字的には若干落ちます。しかし一度に確保することができないためにそのような状態になるのはやむを得ないので 32 年からはそれを挽回するような経営状態にしたいという数値となっています。

質問:会社関係だとこのような計画で実行すると言っていて、最終的に実行できませんでしたとなると会社の方から責められる。32 年までの計画は絶対可能ですか。

回答:一番のネックになるのは 2 病棟から 3 病棟にできるかどうか。その要因としての看護師の確保が 3 年間で 25 人となりますが不可能な数ではないと思っています。看護師の修学支援制度を今までも数名使っています。基本的には正看護師の補助をするということであったが准看護師も病院で教育をしっかりする。看護業務の中で必ずしも看護師でなくても看護補助者でできるようにして看護師の勤務環境を改善することを進めていきます。医師の修学資金もあり今年の 4 月から 2 年目の研修医が来てもらっています。現在は医学部 2 年生が湖西市の修学資金を利用し、将来的に湖西病院に来ていただくようになります。医師のリクルートについても検討しています。計画について絶対できるとは言えないが努力はしていきます。

意見:内容は理解しました。32 年にこの数値に近づくよう市長と相談して頑張ってください。

意見:市民のアンケートだけではなく討論型世論調査を実施したらどうでしょうか。説明会に来て資料を渡されて説明を受けてもよく分かったのは放射線科の話だけです。医療側の説明が分かりにくい。

質問:職員の意識改革の中で P D C A をやっているがフォローが抜けている。P D C A だけだとやりましただけで終わってしまうのでその後のフォローが必要ではないでしょうか。

回答:改革プランの P D C A のアクションの中で 1 年で終わりではなくフォローを含み次の計画に生かしていくという解釈でやっています。

意見:最近あった職員の不祥事は P D C A で終わっていると思います。フォローが欠如しているからああいう問題が起きると思います。貴重な税金ですのでよろしく願います。

質問:病床利用率の数値が悪いが全国平均でいくと適正な利用率はどのくらいですか。

回答:国が推奨するところでは 3 年間平均して 70%以上が理想だと言われています。

私たちの計画の中では 3 年間で 60%を想定し、3 病棟を稼働して平成 33 年度には

140 床の稼働ができれば 70%の病床利用率にできるということで、順次スタッフを揃えながら利用率を向上していきたいと考えています。

質問：60%にするにはどのくらいの医師や看護師が必要ですか。

回答：改革プランにも記載してありますが、医師が3名、看護師・看護補助者で23名を確保するという計画になっています。

質問：医師看護師の確保は、どこの公立病院でも大変だと聞いています。医師確保ということで1年間どのような取り組みをしているか説明をお願いします。

回答：医師は浜松医科大学からの派遣がほとんどで年2回は全教授の所に市長、院長、事務長でお願いに行っています。その他、人事の時期や教授が変わった時などお願いに行っています。市の医科大学に行くときの就学支援制度の活用により、1名が当院に来てもらっていますし、現在1名の就学支援をしています。今後も時間がかかる制度ですが取り組んでいきます。更に民間の紹介会社からの斡旋も検討しています。看護師については看護学校、大学への案内や就職説明会などをしていますが、更に高等学校に伺い将来看護学校に進学するときは修学資金の制度があることも案内しています。今年度は愛知県方面から当院に就職したいという声が若干あるので、愛知県の高等学校にも採用活動をしていく予定です。

意見：新しく市長が代わったこともあるので早急に目標値に近づけるよう、これが平成32年ではなく1年でも2年でも早く達成できるよう知恵を出し合って頑張りたいと思います。

質問：湖西病院の役目として、救急、防災の拠点の機能を維持していくのは大事なこと感じました。それはお金のかかる話でずっと繰入金をもたらしているがそのことどのくらい費用がかかっているか説明をお願いします。収益を生む事業ではないのでそれは住民として機能を果たすためにある程度お金がかかるのは仕方がないが、そうではない収益できる部分についてなんとか収益を上げる努力をこれからもしてほしいと思います。

回答：救急当直業務を行うことに対する繰入金というのも基準がある。約1億円以上が費用としてかかっています。当直の医師に支払う人件費を含めたものです。防災の役割もあり薬剤関係でも備蓄があります。震災時には、救急の受入れ体制を整えば市の防災と連携して受け入れをします。市の防災の体制で外の救護所でトリアージをし、簡単な応急処置というのはそこで終わります。区別して中での手術や入院というのが当院の役割です。更に大きな病院に搬送しなければならない場合には広域搬送の応援を要請します。そういった役割を十分認識したうえで業務を行うとともに通常の入院外来の業務もしっかりやっていかなければならないと思っております。

質問：1日入院単価は保険点数の単価ですか。

回答：保険点数の単価です。

質問：地域医療構想の中の急性期の病院 3000 点以上の病院ということ湖西病院は目指しているのですか。これからも一般救命ができる病院を維持するという計画ということですか。

回答：基本的には開業医を主治医としている方が、CT・MRIなどの検査や手術、入院加療が必要となった時に湖西病院に来ていただくことが私たちの役割だと思っています。更に湖西病院に来て精密検査を行った時に脳外科や心臓など大規模な手術が必要となった場合には、浜松聖隷病院に画像を転送し、救急車で向かう途中でも送られた画像を先方で適正な判断をしたうえで手当てしてもらえます。また、浜松には大きな病院があるので、手術が緊急の場合には、できることを直ちに紹介し、搬送するというのが私たちの役割だと思っています。先方で手術が終わると大きな病院だと1週間ほどで退院ということになった場合には、リハビリ病院に行く場合もありますが、地元の病院ということになれば当院でまた入院をし、次に通院となればもともとの開業医に戻すというのが当院の役割だと思っています。

質問：人間ドックや脳ドックは74歳までは市の補助金があるが75歳以上は補助金がないということは早く死ねということですか。

回答：健診に来られる方は無症状で来る方が多いです。軽いめまいや物忘れがひどくなったと検査を受診される方もいます。その場合、通常の保険診療となります。症状はいろいろで75歳以上の方は、自覚症状があつて受診される方が多いです。補助金については市のほうの制度となりますので病院ではお答えできません。市のほうの健診や人間ドックを受けていただき少しでもおかしいと感じたら保険証を持って当院を受診してください。当院ではさらに精密検査や診療を行うことができます。

質問：2病棟から3病棟という話は具体的に病院を支える施策ですが、こういうことをやるからたくさん患者さんが来てもらえるということで、院長先生からも医師体制の増強をすると言われましたが、それ以外に内科、外科などの部門の拡充だとか3病棟化を支える施策を教えてください。

回答：病棟稼働率が44%とか45%といわれているが実感として分からないと思いますが196床のうち103床の稼働で44%になっています。望ましい稼働率が70%以上ですが稼働している2病棟の中では85%や90%を超えています。もう1棟開けるときに、病院の役割として介護と医療の間の橋渡しをしなければいけないということがあり、高齢の方がある程度余裕をもって入院でき、それに対して人的に濃厚な医療を受けることができるように対応をしていく考えであります。それは、急性期病院なのかということがあります。現在、国では包括ケア病棟を増やし慢性期の病棟を減らすという方向になっています。いわゆる一般急性期の病床ではなくて介

護的な方を受け入れるとか打ち出されています。診療報酬の改定や医療制度の改革の動向に応じて変更もあり得ますが、当面は一般急性期で診ていく考えです。また、3病棟にするのは、現在の2病棟ではいろんな科が混在しているので、それを3病棟に分けることによって細分化ができると看護師も働きやすい職場となるので確保がしやすくなる効果もあります。

質問：産婦人科医の増員とかは32年までの計画の中に入っていないのですか。産婦人科というものについてどのような形で考えているのですか。

回答：浜松医科大学にも平成19年の10月に分娩の受入れを終了して以来、産婦人科の医師を増やすよう要請していましたが実現していません。去年の産婦人科学会の中では、日本中の産婦人科の分娩を担当する医師が減っているため各病院での3人で8時間ずつ24時間体制では医師が疲弊してしまいうため、この地域だと浜松医療センターに産婦人科医を集めるというような施策がされています。それに伴い小児科の医師も同病院に集約されています。湖西病院への医師の増員は行われなため、基本的には妊婦健診等のことは担当しながら大きな病院でお世話になる方については紹介をするということで行っています。市長も公約の中で産婦人科医師の確保を掲げていますが、湖西市内に産婦人科の開業医を誘致する際の補助金が用意されているので横浜で行われる周産期学会のほうに湖西市のブースを出して案内をする予定と聞いています。今のところ浜松医科大学の教授の考えと、産婦人科学会の考えからみますと、当院に医師が3名ほど派遣され産婦人科が開設されるという方向には向いていない現状です。

意見：厳しい状況は分かりますが、湖西市で出産ができないということは市の発展にならないと思います。人口が増えなければ病院事業も増えていかないことになります。厳しいかもしれないが産婦人科の増設は市として進めていく課題だと思いますので、あきらめずに進めていってほしいと思います。

12:00

貴重な意見ありがとうございました。以上をもちまして、終了させていただきます。最後にアンケートご記入をよろしくお願いいたします。

## 病院事業説明会 及び 市民との意見交換会の概要（3回目）

日時：平成 29 年 5 月 23 日（火）19：00～20：00

参加人数：48 名

出席者：市長、院長、副院長代行、事務長、管理課長、管理課長代理、看護部長、看護部副部長、臨床検査科長

### 説明

19：00～20：00 病院のスライド発表、副院長代行・臨床検査科長・看護部長による業務説明。

20：00

### 意見交換会

質問：平成 32 年度から 3 病棟の運営を目指すとありますが、具体的内容を教えてください。

回答：2 病棟で運営しており、現在 40%台となっています。看護師、看護補助者、医師を増やして平成 32 年度にはもう 1 病棟を増やしていく中で、最終的に平成 33 年度には 196 床の約 70%である 140 床を目指します。しかし平成 32 年度にいきなり 140 床を目指すことはできないため、平成 32 年度には 60%を目指し、1 年かけて 70%にします。

質問：平成 32 年度の病床利用率が高くなっているように感じますが、具体的方策はありますか。

回答：施策としては医師看護師を増やして病棟を 1 病棟増やし、患者の受入れ人数を増やし稼働率を増やすということになります。

質問：平成 27 年の病床利用率の目標と結果を教えてください。

回答：目標は 48.5%で、実績は 40.3%でした。8.2%目標に及びませんでした。

質問：平成 28 年度の目標と結果を教えてください。

回答：目標は 44.5%で、実績は 43.0%でした。

質問：平成 27 年度は目標に達成していませんが、それについてどういう対策をしたのか具体的に教えてください。

回答：平成 27 年度には医師数の減少があり、その影響が出てしまいました。当初 3 名で泌尿器科の医師が業務を行っていましたが、2 名なってしまいました。

対策としては浜松医科大学へ医師派遣の要求、研修医の受入れ、修学資金の利用促進といった対策をいたしました。なるべく多くの患者さんを受け入れるためには医師を増やすことが不可欠であったため、平成 28 年度は医師も増員することができました。

質問：平成 32 年度に 3 病棟を増やすとありますが、建物を増やすのですか。どのようにして目標の 60%を目指すのか、もう少し具体的に教えてください。

回答：病院には西側に 2 病棟、東側に 2 病棟で 4 病棟あります。現在は西側の 3 階 4 階の 2 つで 103 床が稼働しており、東側は休床となっております。新しく始めるというわけではなく、この休床している病棟を再開します。そのためには医師、看護師、看護補助者の増員が必要です。少しずつ確保し、人員をそろえてなるべく早く稼働したいと考えております。そうすることによって患者の受入れを増やしていきます。

質問：根拠はあるのでしょうか。

回答：現在稼働している病棟の利用率は 80~83%となっています。再開してすぐ満床は難しいため、1 年かけて 140 床の稼働を目指します。

質問：いろんな話を聞かせてもらいましたが、結果として 10 億円の繰入金が発生するとなると、みなさんのせっかくの苦労が報われていない気がします。そこで、この改革プランをどういうメンバーで作ったのか聞かせてください。

回答：院内で各部署から担当者を出して、院内検討会を行いました。さらにその案を練るため幹部による経営会議も行っています。策定委員会では外部の有識者を招くとともに、市内の自治会連合会の代表や医師会の代表、市の代表者などで会議を開いております。

質問：改革プランの目標や期間は表には出てきますが、本来ならメインテーマの下にサブタイトルで「5 年で繰入金ゼロ」という風にしないと、また同じ事が繰り返されると思います。医療コンサルタント等の専門家の意見をどれくらい求めたのでしょうか。

回答：これまでに外部の意見を聞いた方がいいという意見をいただいております。今回のような意見交換会を開くことも 1 つですし、専門家に意見を聞く機会を設けることも進めています。今まで院長と事業管理者が兼務でやっていましたが、ご意見をいただく中で、管理者を別において経営を専門にやっていただける方を設けることになりプランに入れるとともに、現在人選をしているところです。また決まりましたらホームページ等で報告をさせていただきます。

今回は 3 月に策定した改革プランをみなさんに説明したり、意見交換をしたりというのが趣旨でございます。今後としましては先程事務長からもお話があったとおり、院長と事業管理者の兼務を解消し、事業経営の専門家をお招きし、病院経営を進めていってまいります。今現在でもいろいろな方をお願いをし、人選をしている最中です。それに加えて外部の経営診断をやっている団体に話をしているところで、地域の医療機関としての湖西病院の役割について、個人経営のクリニックや浜松医科大学、聖隷浜松病院、豊橋医療センターなどのさらに大きな病院との役割分担、そ

して湖西病院としてこの湖西という地域の中でどの程度の機能が望ましいのか、という分析をする準備を進めています。改革プランに改定が必要であれば、今の改革プランに加えるという形で実際の病院経営を変えていけるよう進めていきたいと思っています。

意見：「改革」という言葉を使うからには、先頭に立つ人が頭の中を切り替えないとできないと思います。今まで苦勞してやってきたから仕方ないという考え方ではなく、おもいきって変えるためには何をすべきなのでしょう。たとえば開業医がやっていることはしないとか、開業医ができることは全てやらせて、産婦人科など他でやっていないことに力を入れてはどうでしょうか。開業医と診療医の棲み分けを考えてみてはどうかと思います。

質問：1 時間病院側の説明が長々と続きました。ここにいる方たちは毎年 10 億円近い大切な市の予算が湖西病院に導入されており、それに対する問題意識をもってここに集まっている方がほとんどだと思いますが、そういう方たちの意見をもう少し聞くような時間配分にしてほしかったと思います。

市長は財務省にいらして長年国の予算を扱ってきたと思いますが、今の湖西病院の状態は一口に言うとうどうですか。

回答：病院そのものの専門家ではないため、一口には言いがたいです。やはりそこで働いている人はそれぞれ頑張っているとは思っていますが、組織としてたとえば経費削減、設備投資などには改善の余地があると思います。これは湖西病院に限った話ではなく、道路整備や水道事業など、優先順位があります。限界がある中でやりくりをしないとイケません。湖西病院の繰入金はどこまでが許容範囲なのかというのは改善の余地があると思います。

質問：全国 892 の公立病院のうち 478 が赤字ということだが、湖西病院は 478 病院中何位なのでしょう。1 位のところはどこでしょうか。

回答：相対的な数字しか出ていませんが、1 番厳しいのは北海道の夕張市みたいな所ではないでしょうか。しかし当院も決して上位の方とは思っていないので、今後しっかりやっていかなければと思います。

意見：企業で言えば、例えばトヨタなどすばらしい企業があると、他の企業はその企業に習おうとします。湖西病院も全国 1 位の病院を見習ってみてはどうですか。

20 : 30

貴重な意見ありがとうございました。以上をもちまして、終了させていただきます。他にもご意見がある方はアンケートへご記入をよろしく願いいたします。

## 病院事業説明会 及び 市民との意見交換会の概要（4回目）

日時：平成 29 年 5 月 25 日（木）19：00～20：30

場所：北部多目的センター

参加人数：38 名

出席者：副市長、院長、副院長代行、事務長、管理課長、管理課長代理、医事課長  
看護部長、看護副部長、リハビリテーション技術室長

### 説明

19：00～20：05 病院のスライド発表、副院長代行・リハビリテーション技術室長・看護部長による業務説明。

### 意見交換会

20：05～20：30

質問：市からの繰入金の見通しについて、平成 32 年度まで出ているわけですが、これは既に市が了解している数値ですか？

回答：平成 29 年度までは予算化されておりますが、それ以降は計画の数値でありまして、確約されたものではありません。市からは少しでも繰入金が少なくなるように努力なさいというところが市の方針です。

質問：市の財政における病院への負担も増加していくなかで 12 億という金額は非常に大きいし、改善していかななくてはいけないと思います。そういった考えのもとで病院の改革プランをみても、数字目標はいろいろ掲げられているが、具体的な施策が見えないため理解できません。

次に、この数値目標についてですが、年度別に何をしたいかがはっきりしていません。また、年度の最後に有識者で点検するといっていますが、途中の段階でやっていかないといけないのではないのでしょうか。企業で言えば毎月行っている事なので考えていただきたいと思います。

さらに言えば、改革プランが何を基にしているかがわかりません。その辺を明確にしていきたいと思います。医師が足りないというがどこの病院も足りていないので、現状の 17 名体制でどうやっていくか考えたほうがいいのではないのでしょうか。

回答：病棟の再開に向けての施策ですが、何よりも看護師の増加が必要ですので、今年度からは、静岡県だけでなく愛知県の近隣の高校にも就学資金の案内を行ってまいります。

医師の増加についても浜松医科大学に市長とともに事あるごとにお願いに上がっているところです。

2 番目の数値目標を年度別にというところがございますが、今日のお示しした改

革プランは概要版でございまして全文については、HP等に掲げておりますが、それぞれの項目について数値目標を設定しておりますので、それを評価する努力をしていきます。

また、1ヶ月ごとにとというご意見でしたが、評価については年単位となっておりますが、入院・外来等の費用的なものについては、監査委員による監査ですとか、院内の会議の中で実績等をまとめて1ヶ月毎に管理しているところです。

それから、改革プランは何を基にしているかというのですが、大きくいうと今までは、経営の方針について病院事業管理者を病院長が兼務をしておりましたが、それを解消し、経営と医療をわけてというところがございます。それから、平成32年度に病棟を再開して旧平均の入院患者数を118人、平成33年度では140人で約70%の病床稼働率を維持することによって経営を改善していくという計画です。  
質問：各部署の方から現場の取り組みをお聞きしまして素晴らしい内容だと思っております。

質問としましては、先ほど病院の経営と医療を切り離して取り組んでいかれるとの事で、第3者のメンバーを入れて取り組んでくというような事も聞いていますので、そういったメンバーの方も、今日のような会に参加していただいて経営改善の具体的な取り組みを聞きたいと思えます。

個人的な質問になってしまいますが、人間ドックと脳ドックの価格についてですが、同じ湖西地区の浜名病院よりも高くなっています。聖隷病院等の浜松の病院よりは安くなっていますが、これは病院の規模などからわかるのですが、同じ湖西地区の病院同士で価格の違いがあると、またそれを堂々と公表しているのが、改革改善というところとかけ離れている気がしています。そういったところから感じていることですが、湖西病院の経営部門というのは、市の何部の何課に属しているのですか？

回答：湖西市内の開業医さんであるとか、湖西病院を含めて湖西市の医療行政全体の部署としては、健康増進課になりますが、湖西病院の経営部門であるとか医療部門に関しては、湖西病院になります。

質問：どんな方が第3者として入っているかなどを、公表して取り組んでいただきたいと思えます。

3点目としましては、これも具体的な事になりますが、糖尿病の患者が多くなっていると思えます。その合併症として腎臓を悪くしている人も多くなっているとの事で、透析の患者さんも多くなっていると聞いています。

その透析患者の家族が、多い人で週3回ほど送迎しているわけですが、公立病院には病院が行う送迎といったものが無いと聞いています。そうすると、家族が送迎できなくなってしまった時に、送迎バス等がある民間の病院などに行ってしまうこととなります。そういった送迎等も含んだ分野まで考えて、透析患者をみていくと

いう事を踏まえていてもいいのではないかと思います。

回答：第3者のプロジェクトチームという事ですが、おそらく改革プラン策定委員会の事だと思いますが、自治会長さんをはじめ、医師会の代表、市の代表の方、有識者の方等に入っていただきまして策定しました。議事録も病院のホームページに公開しておりまして、そこにはメンバーも書かれておりますのでご覧いただければと思います。

2点目の浜名病院の人間ドックの価格が安いという事ですが、私どもとしましても承知しているところがございますが、内容を確認しますと検査項目が当院のほうが多くなっているというのが1点、それから浜名病院さんのほうは、健診業務をやりはじめたのが近年という事で、患者さんを確保するために、あくまで予想ですが、政策的な金額になっているのではないかと思いますので、様子を見たいというところではあります。

それから、透析患者様の送迎というところですが、ご意見としましては承りました。いろいろ経営的な採算の部分も含めまして検討してまいりたいと思います。

質問：先ほどの最初の質問に対して全然、答えになっていないのではないかと思います。やはり数値目標を掲げる以上は、何をやるか、どうやってやるか、誰がいつまでに何をやるかしっかり計画を立ててやらないと経営なんて出来ないと思います。それを普通の会社と同じようにやってほしいと思います。それを見える化してほんとに何が原因なのかをしっかりと調べてどういうやり方があるのかそういうやり方をやらない限り、何やったらいいのかわからない状態になっていると思うのでもう一回原点にもどって考えていただきたいと思います。

また看護師不足の点で私からの提案になりますが、新城市では看護学校に行かれる生徒さんに奨学金の制度があって学費を助ける代わりに卒業後に市民病院で働いてもらうというやり方もあるのでそういう事も参考にしたらどうかと思います。

回答：最初のご意見につきましては、ご指摘のとおり数値目標を立てて評価をしてまいりたいと思います。

また新城市の事も紹介していただきましたが、私どもも修学資金の制度を設けておりますが、現実的には、看護学校に行かれています生徒さんの99%は既にどこかの病院からお金を借りている状況でして、湖西病院が入り込む余地がないのが現状でございます。そこで、看護学校に行く前の高校生で看護師を志している方に対して掘り起こしをやっていかざるを得ないところが現状でございます、当院でも一ヶ月5万円でございますけども3年間で満額180万の修学資金を用意しております。今後の課題としては、それを受け取っていただける方の掘り起こしをしていかななくてはいけないと思っております。

質問：なぜ5万円で応募がないのかそれを考えたことはないのですか？

回答：応募がないというか、看護学校に行かれています人については行く病院が既にきま

っている方がほとんどです。湖西市には看護学校がありませんので高校生からアプローチすることでこちらに来ていただける方を掘り起こしていかななくてはならないと考えております。

20 : 30 終了

## 病院事業説明会 及び 市民との意見交換会の概要（5回目）

日時：平成29年5月28日（日）10：00～11：40

場所：新居地域センター

参加人数：30名

出席者：市長、院長、副院長、診療部長、事務長、管理課長、管理課長代理、医事課長、看護部長、看護副部長、栄養科長

### 説明

10：00～11：15 病院のスライド発表、副院長・診療部長・栄養科長・看護部長による業務説明。

### 意見交換会

11：15～11：40

質問：説明の中で、医師不足、看護師不足を計画的に解消すると言っていましたが、それは、5年後、10年後の話だと思います。第3回の説明会で、整形外科の先生が1名待遇の悪いなかで来てくれていると知りました。市長も東京で勤めていましたが湖西市を良くしたくて湖西市に戻ってきてくれたのだと思います。私たちも湖西市のために何かできないかと思っています。全国や湖西市民にもっと情報発信して湖西病院のために働いてくれる人を見つける努力をして欲しいと思います。

回答：ありがとうございます。貴重なご意見として承ります。

質問：事業説明会開催について、私はたまたま知り合いのフェイスブックを通じて知りました。これだけの説明会を開催するのであれば、もっと周知することに頑張りたいです。新所・入出方面の出身だが、過疎化が進んで高齢者世帯が多く、湖西病院に行くこともままならない人もいます。経営計画の中で何が必要で何が不要なのか吟味した上で改善に向けて努力していただきたいと思います。

回答：貴重なご意見ありがとうございます。市の高齢者施策の中で家庭に緊急通報装置を設置することができる事業（※）を行っていますので、そういったものを活用していただければと思います。湖西病院としては来院された市民を対象に今後も医療サービスを提供していく必要があると考えています。

※65歳以上の一人暮らしの高齢者の申請に基づき個人負担無しで通報装置を設置できる事業。

質問：市長の病院におけるファーストプライオリティ（第一優先）は何ですか。

回答：もっと市民に役立つ病院になっていく必要があると思っています。その中でどのような機能を病院に持たせ、どのような経営を行っていくのか各論を詰める必要があると考えています。

例えば、それは長期的な視点で分析していくものから、病院事業管理者を設置するなど現時点から速やかに実施するものまで、改革プランの各論について適宜分析・実施をして参りたいと考えています。

質問：一般会計から 12 億円繰り出しています。全体の 6%程度ですが、決して少ない額ではありません。市長がやりたい事業との兼ね合いが出てくると思いますが、それらの事業を先延ばししてでも病院に繰り出すのか、市長の公約事業を実施していくのか、市長の考えを伺いたいと思います。

回答：もちろん湖西病院は大切ですが、福祉・道路事業など一般会計事業も当然大切であります。繰出金を減らす努力というのは現時点から実施していくものであり、そのために改革プランを策定しているものでありますから、経営診断等を適宜実施し、計画の見直しも行いながら、来年度予算から繰出金を 1 億でも 2 億でも減らす努力をしていかなければと考えています。

質問：医師の確保のための市長の具体的な方策は何ですか。

回答：浜松医科大学を訪問し、学長、教授に対し湖西病院の現状をお伝えしているところであります。こうしたところを継続しながら、市の奨学金制度などを活用して参りたいと思っております。

質問：改革プランの平成 32 年度までの繰出金は、市として承認しているのですか。

回答：改革プランの策定には市も関わっていますが、単年度予算については、当然毎年議会の承認を得るものであります。計画は計画として、実際の繰出金については来年度以降についても減らす努力をした中で予算案を作成して参ります。

質問：来院者のなかで湖西市民の割合はどのくらいですか。

回答：延べ人数ですが、年間入院患者が約 40,000 人、外来が約 9,700 人です。その中で約 70 パーセントが 70 歳以上の高齢者であることから、これからもそのような年齢層に対してサービスを提供していく必要があると考えています。

質問：今後、繰出金を減らしていったとしてもゼロにはならないのではありませんか。病院を維持していくために、毎年、少なくとも数億円の事業費を繰り出していくこと、他の事業を圧迫していることを考えなければなりません。当然市で運営していくことが一番ですが、例えば、将来、病院事業については、民間へ移行す

るとか、事業を廃止して浜松・豊橋にお願いするとか、色々な選択肢の中で判断していくことが必要ではないかと思います。

回答：貴重なご意見として承ります。

質問：改革プランでは、平成 32 年度に病床稼働率を 60%にすることを目標としていますが、そのための具体的な施策は何ですか。

回答：当面は急性期病院としての機能を確保しつつ、慢性期の患者も受け入れていくこととしたいと思っています。看護師等を確保していくことで平成 32 年度での 3 病棟運営を目指していきます。まずは人不足を解消した中で平成 32 年度以降の診療報酬改定の内容や収益性を吟味した中で具体的な施策も検討したいと考えています。

質問：今回、市長のフェイスブックで初めてこの説明会を知りました。例えば来年度以降に、経営改革プランの進捗状況や反省点を報告する場などを設けることを考えていますか。

回答：今回の周知について、初めて開催したこともあり、手を尽くしたつもりでありましたが至らなかった点があったと思います。改革プランの進捗状況の報告については、病院のウェブサイトでの公表や広報誌の活用、説明会の開催など、今後検討して参りたいと思います。

質問：土曜日に診察をするのは無理なのでしょうか。

回答：貴重なご意見として承らせていただきます。

11：40

貴重な意見ありがとうございました。以上をもちまして、終了させていただきます。最後にアンケートご記入をよろしくお願ひいたします。